

# 学校だより



令和2年 1月 31日  
横浜市立二谷小学校  
校長 石川 秀子

## 内にあるもの

学校長 石川 秀子

南岸低気圧の影響で関東の平野部でも積雪が心配された1月末でしたが、幸いなことに子どもたちの登下校には影響がなくて済みました。足元から冷気が伝わってくるような寒さの中、子どもたちの登下校の安全を見守ってくださる学援隊・地域の皆様、保護者の皆様にあらためて感謝申し上げます。暖冬といわれる今年の冬ですが、やはり寒さが厳しく感じられる大寒過ぎです。その中でもB棟裏ではスイセンが咲き、ほのかに良い香りを漂わせ、春に向かっていることを感じさせてくれます。ふと見ると二谷小学校の木々にも、緑のビロードに包まれたような冬芽がふっくらと膨らみ始めていることに気がきます。一見何も変わらないように見える土の中、枝の中で、春を迎える準備が確実に進んでいると考え、成長のすばらしさを感じずにはられません。

12月から2年生がかけ算九九を聞かせに来ています。2年生と約束した合格ラインは「2の段から9の段までの九九を2分以内に正確に唱える。間違いは2個まで」というものです。かけ算九九は覚えることがゴールではなく、継続して取り組み、使いこなせるようになることに価値があると思います。自信にあふれて唱えられる子もいれば、「まだ7や8の段に自信がないけれど、やってみる」と挑戦する子もいます。記憶を探り絞り出すように唱えながら頑張る2年生が校長室を訪れてくれることを、楽しみにしている毎日です。

さて、桜の花芽などが休眠から目覚めて開花するためには、一定の寒さにさらされることが必要なのだといいます。「休眠打破」というそうです。まだ固いわずかな冬芽も、春に芽吹き花咲く力を秘めています。子どもたちも「ドキドキする」と言いながら、自分から勇気を出して様々なことに挑戦を繰り返します。思ったような成果が上がらず、時には焦ってしまうこともあるかもしれませんが、でもその小さな芽の存在を感じ、見つけて励ましていく役割を、学校を始め、大人みんなで担っていきたいと思います。

2月に入ると修了式までわずかに35日。子どもたちの内なる力を感じ、励ましていきます。

厳しい寒さが続く毎日です。うがい、手洗いやせきエチケットなどを心がけ、学校でもご家庭でも健康管理をしていくことで、心配な時期を乗り切っていきたいと思っています。

今月もよろしくお祈りします。